

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2022年 7月 8日

(宛先)
滋賀県知事

提出者
住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)
滋賀県犬上郡豊郷町大町307番地1

氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)
彦根ゼラチン株式会社 代表取締役 島田幸泰

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例
第25条第4項 } の規定に基づき、
[事業者行動計画を策定 (変更)]
[事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	彦根ゼラチン株式会社 代表取締役 島田幸泰
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	滋賀県犬上郡豊郷町大町307番地1

1 事業者の概要

事業所の名称	彦根ゼラチン株式会社					
事業所の所在地	滋賀県犬上郡豊郷町大町307番地1					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	6	9	4	※ 産業分類・細分類名称を記載 ゼラチン・接着剤製造業
事業の概要	ゼラチン製造業					
従業員の数	26	人	作業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	5	台	熱源設備		台
	コンプレッサ	2	台	空気調和設備	30	台
				照明設備	約200	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2022(R4)	年度	報告対象年度	年度
	終了年度	2026(R8)	年度		

3 計画の(内容・実施状況)

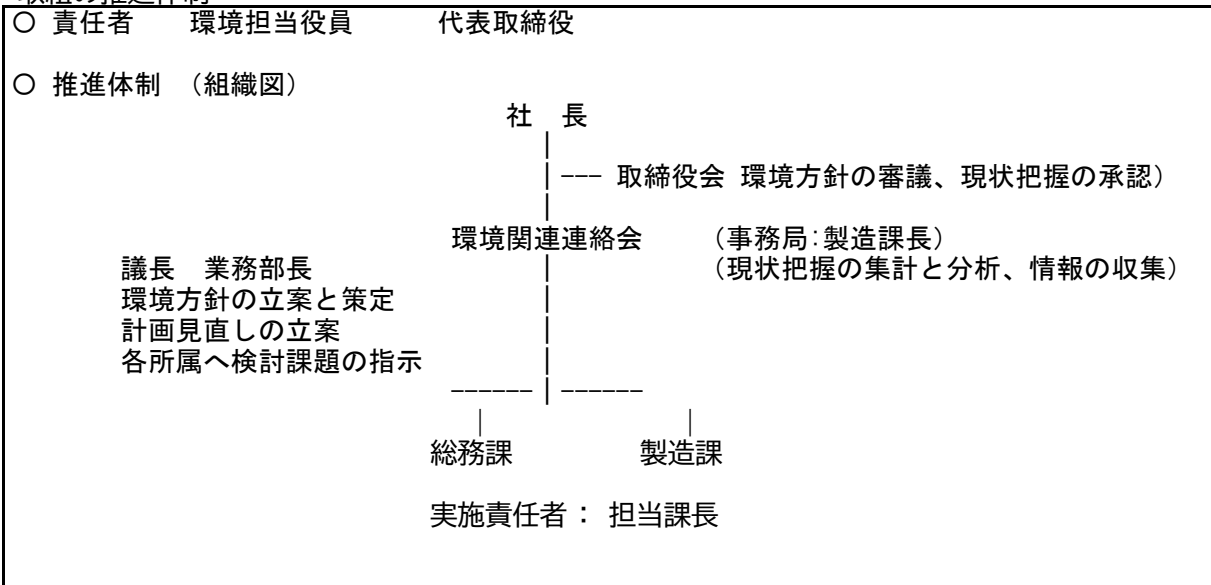
計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

- 1 事業活動を通じて環境負荷を最小限にする仕事の仕組みをつくり、環境の保全と汚染の予防に取り組めます。
- ① 環境に配慮した商品の提供に努めます。
 - ② 省エネルギー・省資源に取り組めます。
 - ③ 廃棄物の削減と再資源化に取り組めます。
 - ④ グリーン購入を積極的に推進します。
- 2 事業活動を通じた環境保全活動を定期的に見直し、継続的な改善に努めます。
- 3 環境保全に関連する法規制および当社が受け入れをきめた要求事項を遵守します。
- 4 この方針を具現化し維持するとともに、全従業員に周知徹底いたします。
- 5 この方針を広く公開し、適切な情報提供に努めます。

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

- 省エネルギー設備の導入を積極的に行い、継続して次のような内容について取り組みを行ってきました。
- 工場・事務所の全照明設備に各々スイッチを装備して、不要時の消灯を行った
 - 事務所の照明をHf蛍光灯に更新した
 - 工場内の照明と街灯をLED照明に更新した
 - ボイラーの燃料を重油からガスに更新し高効率ボイラー(98%)を採用した
 - 配管の加熱装置を自己制御性発熱体仕様へ更新して効率の改善を図った
 - 乾燥装置の空調に使用する冷水タンクの容量を増大させて冷却効率の改善を図った
 - 給水タンクを増設して井戸ポンプの運転効率の改善を図った
 - 電動機の更新時にはすべて高効率モーターを採用した
 - 乾燥の冷却装置を井水利用の装置へ更新して効率の改善を図った
 - エアータンクを大型化してコンプレッサーの運転効率の改善を図った
 - 井戸の用水量の適正化を図り井戸ポンプの効率の改善を図った
 - 乾燥工場の換気方法を改善し換気装置の効率の改善を図った
 - 工場全域においてインバータ運転条件の適正化を図り運転効率の改善を図った
 - ガスコージェネレーションシステムを導入し買電量を削減した
 - 濃縮工程の熱交換器プレートを交換して濃縮効率を上げ蒸気使用量を削減した
 - 乾燥工程において除湿空気の状態を見直して蒸気使用量を削減した

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	乾燥装置でオンライン製品水分装置を導入し過乾燥を防止する	2022年度	
2	運用改善	排水負荷を低減し曝気装置の動力負担を低減する	2022年度～2023年度	
3	運用改善	新型膜により膜濃縮を効率化して蒸気使用量を削減する	2023年度	
4	プロセス改善	液体製品を導入して乾燥工程のエネルギー使用量を削減する	2024年度	
5	設備導入	高効率加熱濃縮器を導入し蒸気使用量を削減する	2025年度～2026年度	

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	HFCs	乾燥工程の配電盤クーラーをノンフロントタイプに切り替える	2022年度	
2	HFCs	排水工程の配電盤クーラーをノンフロントタイプに切り替える	2023年度	
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>上記(1)の取組みにより、2021年を基準年度とし以下の数値目標の達成を目指します。</p> <p style="text-align: center;">温室効果ガス排出量 原単位 = ----- で毎年1%削減 生産量</p> <p>なお原単位の考え方は以下の通りです。 温室効果ガス排出量は製品の生産量に大きく影響を受けるため、生産量を原単位の指標(分母)として設定しました。。</p>	

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告				
		(2022)年度	(2023)年度	(2024)年度	(2025)年度	(2026)年度
原油換算エネルギー使用量	kL	2,788				
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	5,288				
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	5,288				
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0				
CH ₄	t-CO ₂					
N ₂ O	t-CO ₂					
HFCs	t-CO ₂					
PFCs	t-CO ₂					
SF ₆	t-CO ₂					
エネルギー等原単位の推移		3.346				

備考 「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	太陽光パネルの設置	2024年度	
2	再エネECOプラン電気の導入	2025年度	
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	太陽光パネルの導入
2	蓄電池の導入
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
		()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0				
上記のうち自家消費量	kWh	0				